

投稿要領

1. 会誌は歯科矯正学の進歩、発展をはかることを目的としており、歯科矯正学および関連分野の論文等を掲載するものとする。
2. 本会誌は邦文号を年1回発行する。
3. 投稿する場合は本要領を参照すること。
4. 投稿は本会会員に限る。ただし編集委員会が認めた場合はその限りではない。
5. 投稿論文は他誌に未発表のものに限る。
本誌への掲載を受理された論文を日本語または他の言語を用いて、同じ形と内容で他誌に発表する場合には、本誌編集委員会の同意を必要とする。
6. 論文はできるだけ簡潔に記述されたものとし、平仮名、常用漢字、現代仮名遣いを用い、数字はアラビア数字、計量単位は原則として「国際単位系 (SI) の単位記号」に準じる。
欧語は原則として片仮名表記とし、人名等必要なものは原綴りとする。
A 4判用紙に40字×20行の800字で印字する。
7. 論文には表紙をつけ、論文表題 (50字以内)、著者名、著者所属機関名、論文表題の英訳、著者名のローマ字表記 (姓は大文字)、所属機関名の英訳、キーワード (5語以内)、ランニングタイトル (40字以内)、主任または指導者氏名および職名、連絡先の順に記載する。
8. 本文の前に650字以内の和文抄録および220語以内の英文Abstract (症例報告、クリニカルヒントは300字以内の和文抄録および120語以内の英文Abstract, Case reportは120語以内の英文Abstract) を付け、本文を読まなくても論文の大意が理解できるようにする。
9. 学術用語は日本舌側矯正歯科学会 会誌記載の原則・用語用例表ならびに矯正歯科学専門用語集 (日本矯正歯科学会編) や日本歯科医学会学術用語集第2版 (日本医学会編) を参考し、和訳しにくい用語以外は日本語で表記する。
10. 文献は、引用順に並べて一連番号をつけ本文末にまとめる。本文引用箇所には肩番号をつける。文献の書き方は、雑誌のとき; 著者: 表題, 誌名 巻: 引用ページ (最初のページ - 最後のページ), 西暦年, 単行本のとき; 著者: 書名, 版, 発行地, 西暦年, 発行所, 引用ページ (最初のページ - 最後のページ) の順とする。
11. 表, 図 (写真を含む) は, A 4判用紙を用いて 1 枚ずつ作成し, 表または図ごとに通し番号 (表 1, 2, …) (図 1, 2, …) および筆頭著者名を右下に明記し, 本文末にまとめる。表および図のタイトル説明文は邦文を原則とする。表のタイトルは表の上に記すが, それ以外の説明は表の下に記す。図のタイトルおよび説明文は図の下におくか別紙としてまとめて図に続けて添付する。表・図挿入箇所を本文欄外に朱書きする。
12. 表の大きさは刷り上がり 1 ページ以内とし, 1 ページに収まらない表は受け付けない。図は白紙に黒で清書し, 必要があれば印刷寸法を書き入れる。
13. 論文には別に, 種別, 表題, 著者名, 連絡先 (氏名, 所属, 住所, 電話番号, ファックス番号, Eメールアドレス) 原稿枚数, 図枚数, 表枚数を記入した投稿票, 誓約書, Abstractの和訳を添える。郵送する論文はオリジナルを 1 部とし, 他にもう 1 部を著者の手元に保存しておく。論文, 図表, 著者近影の入ったCD-R等も同封すること。原稿の送り先は, 〒450-0003 名古屋市東区名駅南2-14-19 住友生命ビル14階 名古屋矯正歯科学会診療所 日本舌側矯正歯科学会編集理事 川崎宛とする。
14. 本誌に掲載された論文の著作権は本学会に帰属し, 発行翌年にJ-stageおよびメディカルオンラインよりオンライン公開されます。

貴稿が日本舌側矯正歯科学会の投稿要領に沿ったものであるか確認されて、左欄にチェック（または捺印）して下さい。

著 者

チェック

- 人を対象とする場合はヘルシンキ宣言を遵守し、その精神に基づいて「倫理的に行われたこと」かつ「患者あるいは被験者との間にインフォームドコンセントがかわされたこと」が論文に明記されていますか。また、動物実験は「動物実験に関する所属研究機関の指針」に基づいて倫理的に行われたことが論文に明記されていますか？
- 論文はワードプロセッサを使用し、簡潔に書かれていますか？
- 著者近影は添付されていますか（データまたは写真）
- 常用漢字（学術用語など特殊なものを除く）、現代仮名遣いになっていますか？
- 欧語は原則として片仮名表記とし、人名等必要なものは原綴りとなっていますか？
- キーワード（索引用語）は5語以内で記入してありますか？
- ランニングタイトルは40字以内で記入してありますか？
- 文献は所定の書き方で、引用順となっていますか？
- 表紙に連絡先を記入してありますか？
- 表および図（写真を含む）は、A4判用紙を用いて1枚ずつ作成してありますか？
- 表および図に関して、それぞれ通し番号および筆頭著者名が記入してありますか？
また、その表題と説明文を添付してありますか？単位は説明してありますか？
- 図の大きさの指定およびトレースの必要のあるものには、そのことを図に朱書きにしてありますか？
- 図、表および脚注の挿入箇所は本文欄外に朱書きしてありますか？
- 原稿は表題ページを第1ページとして、以下順に抄録、abstractにページ番号を記す。本文は緒言の1枚目を第1ページとしてページを改めて書きおこし、文献、脚注までの通しページを記す。なお、ページ番号は各ページの最下段中央あるいは右端に記す。以上のようにページが記され、この順に綴じてありますか？
- 投稿票、abstractの和訳、誓約書、CD-R等は添付されていますか？
- 顔写真に目隠しを付けるなど個人が特定できないよう配慮していますか？

日本舌側矯正歯科学会 殿

誓 約 書

私は、次の誓約のもとに下記論文（以下「本著作物」）の日本舌側矯正歯科学会誌への掲載を申し込みます。

- 私は本著作物が他紙に未投稿であること及び本誌に掲載されないことが明らかとなるまで本著作物を他紙には投稿しないことを誓約します。
- 私は、私が本著作物の著作者であり本著作物の著作権を保有していることを誓約します。私は、本誌編集委員会に掲載に際して必要と判断する変更、削除その他の修正を加えることをここに承認します。
- 私は、本著作物が第三者の著作権又は出版権を侵害するものではないこと及び第三者から本著作物の内容に関して使用許諾を受けている場合には、使用許諾書の写しを全て本誓約書に添付していることを誓約します。
- 私は、本著作物の内容が第三者の権利を侵害するものではないこと及び万一その内容が第三者の権利を侵害することとなった場合には、私が全ての責任を負担することを承諾します。この責任は、本誌編集委員会により本著作物に変更、削除その他の修正が加えられた場合であっても同様とします。
- 私は、本著作物の本誌への掲載が受理された場合、本著作物の著作権を貴学会に譲渡することを承諾します。譲渡される著作権には、著作物を翻訳・翻案する権利及び二次的著作物の利用に関する権利等本著作物に関する全ての権利が含まれます。
- 私は、本著作物に関する情報を検索サービス等に提供することを承諾します。
- 私は本著作物に起因又は関連して生じる全ての紛争を東京地方裁判所を専属的法廷として解決することに同意します。

題 名

著 者 印 印 印

..... 印 印 印

..... 印 印 印

* 注 著者が複数の場合は全員の署名をして下さい。

* 注 ご投稿の際には必ず原稿に添付して下さい。

投 稿 票

日本舌側矯正歯科学会

*受 付 日	年	月	日	*審議結果	受	照	否
*修正稿受付日	年	月	日	*掲 載	第	卷	号

*欄は記入不要

種 別：原 著 臨 床 症例報告 クリニカルヒント その他

表 題：

著者名：

※非会員著者（2名以内）が含まれる場合は氏名、所属および本論文作成における役割について記入して下さい。

①	氏 名： 所 属： 役 割：
②	氏 名： 所 属： 役 割：

連絡先：氏 名

所 属

住 所 〒

T E L ()

F A X ()

E-mail

原稿枚数（表題，抄録，文献，脚注を含む）	枚
図（写真を含む）	枚
表	枚
別刷希望部数	部

日本舌側矯正歯科学会誌 記載の原則

日本舌側矯正歯科学会 編集・査読委員会

1. 「第1, 第一」「2次, 二次」などはアラビア数字, 漢数字のどちらを用いても差し支えありませんが, 横書きの抄録ですので数字は算用数字で統一することが原則です. ただし, 歯種を示す場合(第一小白歯, 第二大臼歯など)は漢数字を用いてください.
2. 文中でカタカナ表記と英語表記が混在する場合は, どちらかに統一してください. (例) ヘッドギアと headgear
3. 人名, 固有名詞, 文頭の頭文字は大文字を用いてください (Angle, Begg, Spee, 等). それ以外の英語は文頭のみ頭文字を大文字で用い, それ以外は小文字を用いてください.
4. 凡ゆる, 或いは, 如何に, 概ね, 凡そ, 及ぶ, 且つ, 即ち, 是非, 夫々, 其の, 為, 因みに, 何処, 図る, 殆ど, 先ず, 稀に, 勿論, 以って, 故になどの用語はひらがなで統一してください.
5. 学術名で認知されている材料は原則として学術名で表記し, 商品名は用いないでください.
(誤) TMAワイヤー (正) Ti-Moまたは β -Ti合金ワイヤー
(誤) ゴムメタルワイヤー (正) Ti-Nb合金ワイヤー
ただし商品名でなければその特徴が表現できないものはその限りではありません(ブラケットの名称等).
製品の比較等の研究等で商品名で表記せざるを得ない場合は, 必ず利益相反(COI)について言及を行ってください.
6. 英語省略表記の場合, ドットを付けてください.
(Arch length discrepancy → A.L.D. Stainless steel → S.S. Lingual arch → L.A. SD → S.D.)
学術的文章ですので, 未定義もしくは学術用語ではない略語(著者や流派の造語など学術用語集に載っていないもの)が使われていないか確認してください. また, 初出の時はspell outして下さい.
ただし慣例の略語はその限りではありません(ANB, FMA, MFT, TPA, TMJ, TMD等).
7. Overjet, overbite, arch length discrepancyは+および-の符号を付けて記載してください.
ANB, E-lineは, マイナスの場合のみ符号を付けて記載してください.
8. 「左右側」は「両側」と表記してください. (誤) 上下左右第三大臼歯 (正) 上下顎両側第三大臼歯
ただし左右対称性を表現する場合は可. (正) 左右対称
9. 上顎および下顎の顎骨または歯を表す場合は「顎」を表記してください.
(誤) 上下右側, 右上 (正) 上下顎右側, 上顎右側
10. 抜歯は基本的に抜去と表記してください.
(誤) 上顎右側4番を抜歯, 4抜歯 (正) 第一小白歯抜去, 上顎右側4番を抜去, 連続抜去法
ただし慣用語として用いられている場合はその限りではありません. (例外) 抜歯部位, 抜歯基準, 等
11. 症例報告の場合, 治療方針のみ現在形で表記し, それ以外の緒言, 所見, 考察等はすべて過去形で表記してください.
12. 使用する学術用語は, 日本舌側矯正歯科学会学術用語用例表, ならびに歯科矯正学専門用語集(日本矯正歯科学会編)や日本歯科医学会学術用語集 第2版(日本歯科医学会編)を参考にしてください. また, 顎変形症と顎関節症に関しての用語は, 顎変形症学会と顎関節学会が用語統一を行い, 各学会雑誌に掲載されていますので, ご参照ください.

日本舌側矯正歯科学会 学術用語用例表

望ましい	英語表記	望ましくない	解説
anchorage		anchor	
Angle II 級 1 類	Angle Class II division 1 Angle Class II div. 2	Angle II 級 I 類 angle's class 2 div 2 Angle II 級 I 類	Angle、Class ともに頭は大文字 数字はローマ数字だが記号を用いない division を略す場合はドットを付ける。数字は算用数字 スペース除く
archwire Begg type retainer circumferential retainer Hawley type retainer wraparound retainer		arch wire	
CLIPPY-L		Clippy-L	すべて大文字
crossbite scissors bite		cross bite scissorsbite	crossbite はスペース除く scissors bite はスペース入れる
Cu-NiTi Cu-Ni-Ti Copper NiTi Copper Ni-Ti			Cu と NiTi の間にハイフンを入れる NiTi、Ni-Ti いずれも可
en masse			基本的にカナ表記ではなく原語で表記する
fixed retainer bonded lingual retainer	fixed lingual retainer	bonding retainer	
high angle case		highangle case	high angle はスペース入れる
interincisal angle			interincisal angle はスペース入れる
McNamara		Mc Namara	
Nance holding arch		nance's holding arch	
NiTi Ni-Ti	nickel-titanium	ナイタイ NT	NiTi、Ni-Ti いずれも可
<i>in vivo</i> 、 <i>in vitro</i>		in vivo、in vitro	斜体にする
Le Fort		Le fort	
lingual arch		Lingual Arch	小文字
overjet overbite		over jet over bite	スペース除く
quad-helix bi-helix		quad helix bi helix	ハイフンを付ける
sagital split ramus osteotomy; SSRO (以下 SSRO) bilateral sagital split ramus osteotomy; BSSRO intraoral vertical ramus osteotomy; IVRO		SSRO、BSSRO、IVRO	最初の記述時には略さない
Spee の湾曲	curve of Spee	spee の湾曲 spee curve	Spee は人名のため大文字 湾曲、弯曲は誤用
S.S.	stainless-steel	SS	
STb		STb bracket STB	STb の b は bracket の b のため重複させない
TiNb Ti-Nb	titanium-niobium	gummetal ゴムメタル ガムメタル	ゴムメタルは商品名 TiNb、Ti-Nb いずれも可
TiMo Ti-Mo β-Ti	titanium-molybdenum beta-titanium	TMA CNA	TMA、CNA は商品名 TiMo、Ti-Mo いずれも可
transpalatal arch TPA palatal bar			
.018 × .025, .016 roundwire		018" × 025", 016"round- wire	
11 歳 5 か月		11 才 5 ヶ月	数字は半角文字を使用
1 咬頭 II 級	full cusp Class II	full class II	cusp を入れる Class の頭は大文字
う蝕、齲蝕		ウ蝕	
エックス線		X 線 レントゲン	エックスはカナ表記
エラスティックチェーン エラスティックスレッド	elastic chain elastic thread	パワーチェーン プロチェーン F.M. リングレット	
エラスティックモジュール エラストメトリック	elastic module elastometric	o-リング	
オトガイ		頤	
開咬	open bite	開口 openbite	スペース入れる
過蓋咬合	deep bite deep overbite		
矯正治療単独		矯正単独治療	「矯正単独治療」は俗称
クリアリテーナー invisible retainer	vaccum formed retainer	クリヤリテーナー クリアーリテーナー Essix リテーナー	
クリンパブルフック クリンパブルアタッチメント	crimpable hook crimpable archwire hook crimpable surgical hook crimpable attachmen crimpable hook		

望ましい	英語表記	望ましくない	解説
クリンパブルロングフック	crimpable long hook crimpable power hook		
骨延長 (法)		仮骨延長 (法)、顎骨延長 (法)	
頬側		頬側	
顎部		顎部	
外科的矯正治療	orthognathic surgery	外科矯正	
咬合挙上	bite opening	bite raise	
骨格性Ⅰ級 骨格性Ⅱ級 骨格性Ⅲ級	skeletal Class I skeletal Class II skeletal Class III	骨格性Ⅰ級 skeletal 3	Classを入れる (大文字) 数字はローマ数字 I を連続入力する (環境依存文字は使用しない)
骨格性下顎前突		骨格性反対咬合	
矯正歯科 (医)		歯科矯正 (医)	科名または専門医を表す場合
歯科矯正用アンカースクリュー	miniscrew, TAD	インプラントアンカー アンカーインプラント	インプラントアンカーは正式名称ではない 英語では anchor screw は用いられない
歯科矯正用アンカープレート		SMAP アンカープレート	
上下顎両側		上下左右	左右側を表す場合、両側と表記する
切端咬合	edge-to-edge bite edge-to-edge occlusion		
先天性欠如	congenitally missing	先天欠如 先天性欠損	
側面頭部エックス線規格写真 側面セファログラム	lateral cephalogram	側方セファロ	
第一期治療 1期治療 早期矯正治療	early phase orthodontic treatment	小児矯正	「小児矯正」は俗称
第三大臼歯	third molar	第3大臼歯 智歯 親知らず 親不知	
第二期 2期		2nd phase	
短顔型	brachyfacial pattern short face type		
中顔型	mesiofacial pattern mesio facial pattern		
長顔型	dolichofacial pattern long face type		
排列		配列	
半咬頭Ⅱ級	end on Class II end to end Class II half cusp Class II	end to Class II half class II	halfの後には cusp を入れる Classの頭は大文字
反時計回りの回転	counterclockwise rota- tion		
ヘッドギア、上顎顎外固定装置 ハイプルヘッドギア	headgear high-pull headgear	ヘッドギア、head gear	スペース入れない
ボウイング	bowing	ボーイング	
マウスピース型カスタムメイド矯正歯科装置 アライナー型矯正 (歯科) 装置	orthodontic aligner	マウスピース矯正 インビザライン	
マルチブラケット装置	multi-bracket appliance	マルチブラケット治療 multi bracket appliance	「マルチブラケット治療」は俗称 multi と bracket の間にハイフンを入れる
ラビアル矯正 唇側マルチブラケット装置	labial orthodontics labial multi-bracket appli- ance		
リンガルブラケット矯正法 リンガルブラケット矯正装置 舌側矯正治療 リンガルマルチブラケット装置 舌側矯正	lingual bracket orthodon- tic technique lingual bracket orthodon- tic appliance lingual orthodontic treat- ment lingual multi-bracket appliance lingual orthodontics	裏側矯正 内側矯正 マルチリンガルブラケット装置 舌側装置 lingual appliance	
隣接面削除 ストリップング	IPR disking		

* その他の用語については、「日本歯科医学会学術用語集 第2版」ならびに「歯科矯正学専門用語集」をご参照ください